



渚滑っ子

教育目標：人間性豊かな児童の育成

～自ら気づき、自ら考え、自ら行動する子～

令和5年10月25日発行

文責：校長 佐藤 進也

教育活動を通じた学びは、様々なところで生きる

9月23日に、小学校学芸会、中学校学校祭を共同で開催しました。

学芸会は決して出来（完成度）を求める場ではなく、演奏や演劇の達人を育てる場でもありません。教育活動として子どもたちを成長させる場であるというも思っていることです。言い換えると、重点教育目標（関わり合える子）が達成できるかどうかことが大事であるということです。今年度は、今まで以上に異学年の交流を通して「望ましい人間関係の形成」を図ることを大事にしていきたい、と考えていました。9月の全校朝会の講話では、一人一人に課題を出しました。

「1・2年生のみなさんへ…学芸会を楽しんでほしいです。学芸会では劇や音楽を上手にやるのが大事ではありません。学芸会を通して楽しさを見つけ、笑顔で相手に発表できるように頑張ってください。」

「3・4年生のみなさんへ…3・4年生は学芸会を通して、友達と協力することの大切さや楽しさを学んでほしいです。3・4年生ですから少しハードルを上げ、難しいことにチャレンジしてほしいです。そのことが、終わったときの達成感につながります。より達成感を得るためには、ぜひ友達と学芸会をつくりあげてください。」

「5・6年生のみなさんへ…5・6年生のみなさんには、1～4年生とは違った、少し難しいことをお願いします。学芸会の取組を通して、“なぜ学芸会をやるのか”その意味を見つけてほしいです。」

学芸会の取組が進み始めたころ、昼休みに6年生から話しかけられました。

「私は学芸会をなぜやるのかと言うと、運動会では協力を大事にしてきたが、そのときは、赤・白とチームに分かれて取り組んできた。でも、学芸会はみんなで団結してつくり上げるもので、（みんなでやるということは）今までかかわってこなかった人とも関わり合えることが大事。」という趣旨のことを話してくれました。

私はこのやり取りを通して2つのことを考えさせられました。

一つ目は、自分自身の考えをもち、自分の言葉にできたこと（が素晴らしい）。

二つ目は、自分の考えを相手に伝えようと思い、伝えられたこと（が素晴らしい）。

全校朝会では「学芸会をやる意味を見つけたら教えてね」と呼びかけていました。そうだとでもそれをあえて伝えることはものすごいエネルギーを必要とすることです。学芸会の期間中に何も応答がなくてもそれはそれでよしと思っていただけに驚かされました。

学芸会という教育活動はどうしても練習や本番の場に視点が行きがちですが、それ以外の場面でも学びが生まれてきます。むしろその学びの方がこれまでの学びを生かしているのでは、と思うときもあります。だからこそ、このような教育活動には価値があると思っています。そのことを学校としてうまく伝えていけるよう努力していきます。ただ、今の時点で確信していることはどの子も学芸会を通してまた一つ成長したことです。

「関わり合える子」を意識した教育活動

【望ましい人間関係の形成の「考え方」について学ぶ（子どもサミット 2023）】

これまでも、道徳の時間や学級活動、全校朝会等の活動を通していじめについて考えてきましたが、今年度の子どもサミットでは、「相手を思うとは？」をテーマに考えました。

（10月3日（火）実施）

日常の行為からいじめにつながる可能性がある事象を通して、自分だったらどうすればいいのか、友達との話し合い、他校の人の考え方に触れて自分の考えを深めました。

- ・自分にはそういうつもりがないのに言葉の使い方ひとつで誤解を受けること

→書き言葉の難しさ（ニュアンスや表情などから判断する会話とは違う。逆にコミュニケーションは表情や声のトーンなども相手に影響を与える）

- ・相手の行為の意図を聞かず、悪く思うこと、思い込みでいじめにつながるながれをつくってしまうこともあること

→相手が発した言葉や行為の意図や気持ちなどを聞き返す、確認することが大切であることなどのことが見えてきました。

大事なのはこの考えを自分自身の日常場面に当てはめられることです。そのことこそ、「関わり合える子」の「望ましい人間関係の形成」にもつながっていきます。

【望ましい人間関係の形成の「実践力」が身に付いてきた瞬間（稲刈り体験）】

10月4日（水）に、北海道オホーツク総合振興局西部耕地出張所様の御協力をいただき、もち米の稲刈りとはさ掛け（束ねた稲を棒などに架けて自然乾燥させること）を体験しました。

毎年体験している行事ですが、その年その年で見せる姿が違います。子どもたちが自然と協力できる＝望ましい人間関係を形成しようとしている姿がたくさん見られました。

- ・稲刈りとはさ掛けの役割が“自然と”きまり、どの子もバランスよく行っていること。

- ・展開によっては、はさ掛けの役割に回った方がよいと判断し、そこで作業を行っていること。

- ・友達とのやり取りに優しさを感じる（言葉がきつくない）。

など、何気ない姿からたくさんのよさが見られました。

今年度は予定の時刻よりも早く作業を終え、職員の方から米に関するクイズを出していただくなど、今までと違う活動もありました。

一人一人が自分の役割を認識し、自ら動く姿がとても印象的な1日でした。

学校だよりだけでは伝えきれない日常の教育活動の様子を学校HPで紹介していますので、ぜひご覧ください。



11月の主な行事予定

1日（水）全校朝会

10日（金）公開研究会

17日（金）定例職員会議

27日（月）評価事務のため4時間授業

28日（火）評価業務のため

ノーチャイムデー

※ノーチャイムデーは下校時刻が変わりますので、学級通信で確認ください。